

令和5年度やおうえるかむコモンズ推進会議
主催事業
事業視察アンケート集計結果



やおうえるかむコモンズ

調査対象：八尾市芸術文化振興審議会委員7人

調査会場及び調査時期：

1. 高校合同文化祭	
・11月12日（日）～19（日）	・プリズムホール
・11月11日（土）～19（日）	・茶吉庵
・11月18日（土）	・シルキーホール
・11月19日（日）	・地域共生空間つながり
2. まちかどライブクリエイション	
・11月26日（日）	・龍華町西公園・ファミリーロード
・12月10日（日）	・近鉄八尾駅前噴水広場・茶吉庵（展示は12/4～）
・12月17日（日）	・TSUTAYAリノアス八尾店
	・八尾廃校SATODUKURI BASE

調査機関：やおうえるかむコモンズ推進会議事務局（八尾市文化・スポーツ振興課）

Q1. 参加イベント

高校合同文化祭		まちかどライブクリエイション	
プリズムホール	4人	龍華町西公園	5人
シルキーホール	1人	八尾ファミリーロード	0人
地域共生空間つながり	2人	近鉄八尾駅前噴水広場	4人
茶吉庵	2人	茶吉庵	1人
		TSUTAYA リノアス八尾店	3人
		八尾廃校SATODUKURI BASE	2人

Q2. イベントの満足度

カテゴリ	高校合同文化祭	まちかどライブクリエイション
不満	0人	0人
やや不満	1人	1人
普通	1人	2人
やや満足	2人	2人
満足	1人	2人

Q3. 「八尾市芸術文化基本計画」に掲げる7つの施策のうち、どの施策に寄与するか

	高校合同文化祭	まちかどライブクリエイション
【1】芸術文化による創造及び交流の基盤の形成に係る体制及び仕組みの整備	1人	2人
【2】芸術文化につながる機会の提供	4人	6人
【3】芸術文化を深く味わう機会の提供	1人	3人
【4】自由な芸術文化活動のための環境の整備	3人	5人
【5】芸術文化を通じた子どもの育み	4人	4人
【6】芸術文化を通じた地域の活性化	3人	5人
【7】芸術文化によるまちの魅力の発信	1人	3人

【自由記述】

Q3. どの施策に寄与するか選んだ理由

まちかど 2・5・6・7	<p>芸術文化を通じてさまざまな人と人との関係性が新たに生まれていたので、2、5、6、7を選びました。</p> <p>これまで、私自身は八尾市以外の劇場のアウトリーチ事業に参加してきました。アーティストが学校や地域施設へ赴いて行う「アウトリーチ事業」は、市民に芸術文化を体験してもらう非常に有効な手段、ボトムアップ事業だと思っています。（もちろん、プリズムホールも同じくアウトリーチ事業には熱心に取り組んでいると認識しています。）</p> <p>その経験と比べてみて、「まちかどライブクリエイション」は、まさにアーティストを放つ試み。八尾で日々の暮らしを営む市民が、知らず知らずのうちに芸術文化に触れる、出会いの場を作っていたように感じます。「知らず知らずのうちに」というところが重要で、従来のアウトリーチ事業では手の届かない市民層へ届いていたように思います。</p> <p>特に会場で印象的だったのは3つです。①コラボレーションの場（ジャンルの違うアーティスト×アーティストのコラボ）②出会いの場（まちかどにアートを仕組むことによって、アートに遭遇してしまった市民たちのふるまい、まちの風景、市民の心が変容する様子）③居場所、そして、次第に市民の表現の場へ（会場が幼少の子供、高齢者、障がい者の方達の憩いの場になっていたこと。</p> <p>さらに鑑賞者であった市民が、アーティストに触発され飛び入り参加する様子）はとても印象的で素晴らしいです。</p>
高校 2・4・6	<p>プリズムで拝見させていただいた高校合同文化祭は、普段関わりのない高校生同士が一つのイベントを共有して、個々の持ち味を發揮して、活動をしていたところがとても良かったと思います。</p> <p>また、地域の人たちが、高校生の“今”を感じることもできますし、なにか気づくこともあるので、地域での文化活動として素晴らしいと感じました。</p>
まちかど 1・6	<p>まちかどライブクリエイションは、「近鉄八尾駅前の噴水広場」で拝見しました。</p> <p>噴水広場での開催ということもあり、もう少しお客さんが来るのかと思いましたが、かなりまばらな状態でイベントとしての力強さが楽しかったと思います。</p>
まちかど 2・4・5・6	<p>全てのイベントに参加したかったのですが、日程の都合がつかず、残念ながら一箇所のみの参加となりました。偶然にも自宅のすぐそばの公園だったので、子どもたちも連れて行くことができました。</p>
高校 5	<p>『高校合同文化祭』では、八尾市内の高等学校の授業科目に「美術」がない中で、高校生たちが部活動としての成果を發揮する場を提供できていました。</p>
まちかど 2・3・4	<p>『まちかどライブクリエイション』では、駅前広場や公園、店舗などさまざまな場所を利用して、幅広いジャンルのアーティストによるパフォーマンスやワークショップを展開していました。</p>
高校・まちかど 1～7すべて	<p>初めての取り組みという事で、これから八尾市に芸術文化を根付かせるかがとても大切になっていきます。そういった意味においては、最初の一步としては十分に【1】～【7】までの全ての分野で、期待感や今後の發展を感じさせていける内容であったため</p>
高校 2・5・6 まちかど 2～6	<p>高校合同文化祭は今回で2回目、まちかどライブクリエイションは初めての取り組みであったが、いろいろと考える機会にはなったと思う。まだまだ克服していかなければならない課題が多く、検証し次に続けていかなければならないが、まずは左記の選択のような分野では、一步前に進めたのではないかと思います。</p>
高校 2・4・5 まちかど 2・4・7	<p>本番のわずかな一面しか見ることはできませんでしたが、どれも賑やかに華やかにとり行われていたと思います。</p> <p>左記を選んだ理由として、交流が生み出されていた点、まち中の複数の場所で、芸術文化に触れ、活動できた点があります。</p>

Q4. イベントの良かった点や気になった点

【良かった点】

①コーディネーター：「リーダー」と呼ばれる各場所のコーディネートを推進会議メンバーがいたことがよかったです。それぞれの場所を担当しているリーダーが、市の事務局と連携しつつ、独自に動き、アーティストと場所を繋いで場づくりをしていました。コーディネーターの重要性を感じました。

②サポーター制度：出演、出展、運営に参加した人を「メンバー」と呼び、やおうえるかむ commons のバッチを渡す制度はとてもよい効果をもたらしていました。バッチは購入制ではなく、なにがしろ自分の時間や能力を提供した時にもらえる。まちかどライブクリエイションの参加者は仲間になり、自分ごとにする事の重要性を感じました。

A委員

【気になった点】

①チラシの記載情報：「やおうえるかむ commons とは」「まちかどライブクリエイションとは」という説明がないのでイベントの趣旨がわからない。また会場の記載方法がバラバラで、場所を知っている人は分かるが、市外の人間には不親切、内向きな印象を与えました。時間がなかったと思いますが情報は精査すべきかと思います。

②出展者、出演者が重複している：同じ人が別会場でも開催しているというのは、仲間内でやっているイベントであるという内向きな印象を与えました。開催までに適切な人材との出会いがなかったこともあるかと思いますが、バランス感覚に欠け、重複するのであればそれなりの理由づけ、説明があると感じますが、私にはわかりませんでした。

高校合同文化祭は、各校の文化活動で行われているものを展示しているのは素晴らしいと思いましたが、可能なら、八尾市という場について気づいたことを発見して、共通のテーマで作品づくりに落とし込めたら、良いのかと思いました。

B委員 今の状況だと文化祭レベルで終わってしまい、お客として見る側が身内ばかりになってしまうのではないかと思います。高校生が見つめる八尾市を表現してもらえたらいいのではないかと思います。

まちかどライブクリエイションは、すこし身内のりな感じがしてしまいました。

八尾市在住や八尾市に関わりのある人だけでなく、八尾市に興味を持って表現される方も公募というか、募集すべきだと思います。よその人たちが八尾市という場に訪れてもらえるきっかけを作ることこそが芸術文化を育む力だと思います。

天候に恵まれ、参加者は良い日曜日の午後を過ごせたと思います。各ブースのイベントも様々で、出展者のみなさんが積極的に参加者とコミュニケーションをとって楽しい空間を作ってくださっている様子に、イベントの目的を全員が共有していることが伝わり、皆が一つになっているようなあたたかい雰囲気を感じました。また、高安委員とステイヴ エトウ氏のパフォーマンスによって、参加者は、更に解放された雰囲気の中でイベントを楽しむことが出来たと思います。

C委員

同日に別イベントもあった中でしたので、相当なご苦労があったことを承知で申し上げますと、せっかくステージ空間と音響設備がありましたので、もう少しフォーマーの方が多ければ、更なる参加者増にも繋がったかもしれないと思いました。

現在、八尾市内の高等学校の授業科目に「美術」がない中、『八尾市文化会館』では部活動としての成果を一堂に会する展覧会を開催されました事に敬意を表します。只、残念な事は会館の回廊部分と1Fの広場の一部の展示でした。八尾市文化会館プリズムホールには立派な展示室が有るにも関わらず何故利用しないのか少し疑問と残念に思いました。予算が無いとの事らしいですが、企画段階で市側として予算を組んでいると思うのですが、少し残念でした。高校生に「八尾市文化会館プリズムホール」の隙間を貸してやっているならば、出展された高校生に対してのレスポットの無さを感じます。

D委員

『龍華町西公園』ではサッカーボール持参の若者も来ていましたが当然、当日は貸し切りです。何かやおうえるかむ commons のイベントである旨の趣旨説明のチラシでも配布して理解を深めて貰えればと感じました。

『近鉄八尾駅前噴水広場』ではかなり長い時間、各種団体・個人のパフォーマンスがあった様でした。通行の八尾市民の反応は如何でしたか。少し妨げるような事は無かったですか。

【プリズムホール】

高校生のダンスや書道部のパフォーマンスなど、一生懸命さが伝わり大変良かった。展示作品も力作ぞろいで、八尾市の高校生の芸術の高さを知ることが出来た。お茶会は、張り詰めた空気の中で丁寧に作法を披露していただき大変良かった。金銭的な問題があると思うが、ホールで行うと見ごたえがより高まると感じた。その際は、軽音のパフォーマンスも見たい。

【シルキーホール】

複数の学校が集い、ライブを行うのは大変に刺激があることもあり大変良かった。ただ、学校関係者以外の方は入りにくかったのではと感じた。

【地域共生空間つながり】

E委員 当日は、天気も良く屋外での高校生による太鼓・アコースティックギター・ダンス・吹奏楽のパフォーマンスは、大変充実したものでした。ただ、学校関係者以外の参加はどうだったのかと感じた。

【茶吉庵】

高校生の力作が見れてよかった。特に支援学校の生徒の作品は、見る機会が少ないので大いに感心した。平日に見学に行ったこともあり、見学者が非常に少なかった。このタイミングに合わせて、地域の発表など多くの方が関心を持つ内容があれば、より充実する気がする。

【龍華町西公園】

冒頭の挨拶と吹奏楽の演奏のみ参加させていただいた。当日は、天気がよかったこともあり、のんびりとした空気感があり、大変落ち着いた雰囲気で行った。各種団体がテントを出して、制作物を作れたり、キッチンカーでの飲食の提供など、楽しめる要素がふんだんに取り入れられており良かったと感じている。これを毎年できる企画に練り上げていくためには、団体の協力は勿論、市民にどうしたら足を運んでいただけるかが課題だと感じた。

F委員 高校合同文化祭に関しては、高校側の取り組み方に問題があったように感じました。高校間での温度差や生徒たちの取り組む意識の差といったものが、作品の展示方法などにあらわれていたように思います。ダンスや演奏に関しては積極的に取り組んでいたようにも思いますが、観客は身内の人が多く見受けられ、関係していない生徒たちの観覧は少なかったように感じました。

一方、大人がメインであったまちかどライブクリエイションは、各会場ともに盛り上がっていたように感じました。ただ、八尾市全域の市民に対して効果があったかというまだまだといったところなので、今後の課題として、どう広報や宣伝をすれば広がりを持てるのか検討していかなければならないと思います。

G委員 イベントの「良かった点」は、プリズムホール以外の多くの場所で、プリズムには来館し得ない方も、公園、コミュニティスペース、商業施設といったなじみやすい場所で、参加、鑑賞できる機会がつけられたこと、これが大きいと思います。（わざわざ「公演」を観に行くという動機がなくても、目に入る、参加できるという状況が良いと思います。）

Q5. 本事業の今後についてのご意見やご助言

A委員 ①来場者の特質：TSUTAYAリノアス八尾店以外の参加した3会場は、電車や車移動が簡単にできない層（幼少期の子どもの親、高齢者、障がい者）が多かったように感じます。学生、65歳以下の大人で来場している人の多くは、概ね、関係者・出演者ファンで通りすがりの人は少ない印象でした（休日は市外か、リノアスに集合するのか？わからないけど）。そう思うと、八尾に住む誰もが生きやすいまちを目指し、モズムのゆるやかな輪をつくっていけば、社会課題解決型の取り組みとしても重要になってくるのではと感じました。「八尾がかわれば世界がかわる」

②八尾駅前噴水広場：活動を知ってもらう上でも今後も開催していった方がいいと思います。来場者からも「ここで定期的に何かやってほしい、賑わいを創出してほしい」と直接要望を受けました。しかし、来場者は高齢者、車椅子、障がいをお持ちの方を多く見かけたので、ブースは高齢者向けに切り替えたほうが良いように感じました。

③モズムメンバー：今後、八尾の商業者をメンバーに迎え、TUTAYAリノアス八尾店のように「まちかどライブクリエイションウィーク」を設定して、飲食店や美容院、会社の玄関口や壁、施設の一部エリアを提供してくれるようお願いしたらどうでしょうか。商業者に活動を知ってもらい、またお店にお客さんも来て互いに利益になるかと思います。

B委員 多くの場所で様々なイベントがあり、みたいものと感じるものもありましたので、興味はそりました。けれどなんだか残念なのは少し場所的に散らばりすぎたのかなあと思いました。もし多くの場所で観てもらうことを考えるなら、少しゲーム性をもたせて、スタンプラリーのような形で、八尾市自体を知ってもらえるように探索してもらう形式も必要かと思いました。

八尾市に在住している人ですら、八尾市全体を知っている人は、そう多くないでしょう。八尾市に愛着をもってもらいたい、誇りを感じてもらいたい。そして八尾市の地域づくり、町づくりとして考えるなら、芸術文化という素材をいかして、私達が八尾を理解する形式も必要だと思いました。

C委員 同日に演奏会の予定があり残念ながら都合がつかず、他のイベントへの参加が叶いませんでしたが、フライヤーで見せていただだけでも興味や好奇心を掻き立てられる内容だったと思います。また、八尾市にたくさんのアーティストが暮らしていることを知るきっかけにもなりました。

ただ、内容を含め、どの程度プロフェッショナルなものに触れることができるのか、が不明瞭かもしれないと思いました。プロフィールか、普段の活動内容、もしくは当日のパフォーマンス内容についてなど、短いものでも少し紹介が記載されていれば、より楽しめるのではないのでしょうか。

D委員 『TSUTAYAリノアス八尾店』では営業時間内のパフォーマンスとワークショップですので、浮世似顔絵堂の村政氏が思う存分の事が出来たかどうかは知る事が出来ません。が、場所的に狭く、しかも営業中ですからお互いの「気の遣い合い」があったかもしれませんが、来年へ繋がる成果を期待しています。

E委員 企画内容はとても良かったと思う。今後、継続し、発展させていくためには企画の充実に加え、来場者をどう増やすのが課題になると感じた。人が多く集まるアリオ八尾の活用などの充実も必要になると思う。広報媒体であるFMチャオが閉局してしまうのは八尾の文化振興には痛手であると感じる。

F委員 初めての取り組みとしては上々の滑り出しだと思います。今年度からは、2028年の八尾国際芸術祭（仮）YAODINATEに向けて、基盤整備や挑戦と検証、修正と拡大を図って行ければと思っています。

G委員 ・予算措置（材料や物の調達、人が動くということには経費が発生しますので、今後、これに対する何らかの措置が必要です。）
・運営人員、コーディネーターの養成
上記2点を「好意」「協力」（＝義理）に頼ってしまうと継続できないと思います。

Q6. 参加者（高校生、パフォーマンス実施者、ブース出展者等）へのメッセージ

高校生合同文化祭の皆さんへ。お疲れ様でした。スケジュールの都合で残念ながら見に行くことができず、ごめんなさい。ただ、InstagramなどのSNSで皆さんが投稿されている動画や写真をみました。それぞれにいきいきと表現をされている様子が伝わってきました。部員の皆さんが共に過ごしたことが、表現するために向き合った時間は裏切らない。きっとこれからの人生を豊かにしてくれると思います。

A委員 今後のご活躍を応援しています。

まちかどライブクリエイションの皆さんへ。お疲れ様でした。全ての会場を残念ながら見ることは叶いませんでした。ごめんなさい。ご準備など色々大変だったと思います。ありがとうございました。いずれの日もお天気に恵まれて本当に良かったですね。このプロジェクトに参加させてもらって、八尾にゆかりのある様々な人と場所と出会うことができました。楽しかったです。今後ともよろしく願いいたします。

B委員 高校合同文化祭で、高校生の熱さは伝わって楽しかったです。また出展された皆様もお客さんに親しみやすい感じに対応されたのがとても好感がもてました。

C委員 素敵なパフォーマンスを見せてくださったり、似顔絵を描いてくださったり、一箇所様々アートや人々との出会いがあり、大人だけでなく子供にとっても日常から少し離れた楽しい時間になりました。感謝いたします。

「やおうるかむコモンズ・まちかどライブクリエイション」開催にご尽力されました、八尾市魅力創造部文化・スポーツ振興課職員の皆様、やおうるかむコモンズ推進会議の関係者の皆様に対し敬意を表します。

D委員 『龍華町西公園』では八尾の名品のブース、キッチンカー等を拝見しました。スティーヴエトウ氏のパーカッション演奏で高安美帆さんの神楽をテーマにしたパフォーマンスを拝見しました。休みなく約50分間のパフォーマンスには感服した次第です。

『近鉄八尾駅前噴水広場』における山田廣之信氏の生け花パフォーマンスは良かったです。準備も朝早くからされていたようで、花も豪華な内容でした。花の費用は如何でしたか。彼の自己負担ならばかなりな物と思います。彼に対するリスペクトを掛けて下さい。

E委員 とても気持ちのこもったパフォーマンスや作品に触れることが出来て、大変良かったです。これからも、全身全霊で文化芸術に取り組んでください。ありがとうございました。

F委員 高校合同文化祭もまちかどライブクリエイションに組み込み、高校生だけではなく、大人たちとの交流を図っていければ、もっと広がっていくように思います。

G委員 皆さんの想いをぶつける場として成立させていってください。

Q7. その他

まちにアーティストを放つこと。市民の日常生活、生活圏の中にアートを潜ませること。まちの中にアートを仕組む「まちかどライブクリエイション」は、八尾のまちや人を一時的に変容させる。次第に、それが日常になったら面白いなと今回参加して感じました。アートに遭遇してしまつた市民たちのふるまいをたくさん目撃することができました。それは、八尾市民の特質「ノリの良さ」なのかもしれません。これほど積極的に市民が参加していく現象は、誇ってもいいのではないのでしょうか。アートに遭遇してしまつた市民たち、目撃した事例をあげます。

・事例①買い物客（リノアス）：TSUTAYAリノアス八尾店内にいる買い物目的のお客さんが、アートに遭遇。それぞれ距離を測りながら、見たり聞いたりしていた。

・事例②：近隣の商業者（近鉄八尾駅前噴水広場）：会場の近くにあるお店「河内うどん」の店長、従業員が店を開けた後、来場。出演者や運営スタッフに「なんか、ええ音聞こえたから来たわ。ええやん！」と声を掛ける。

A委員 ・事例③：踊り出す幼少期の女子（JR久宝寺駅前）：パフォーマンスが開始してすぐに、舞のふりを忠実に真似る。アーティストが少女に参加を促すと、パフォーマンスエリアに出てきて出演者になった。何度も！

・事例④ウルトラマンを演じる幼少期の男子（JR久宝寺駅前）：パフォーマンス中、客席から座つたままウルトラマンを演じる。アーティストに向けてウルトラマンビームを繰り出しウルトラマンの戦いの場面を再現。出演者になった。

・事例⑤竹太鼓を叩く中学生たち（JR久宝寺駅前）：ボール遊びに来た中学生が会場の隅にしばらく座っていたが、アーティストとのさまざまな交流に促され、観客参加型演奏の際には、竹太鼓を叩き、掛け声を出して参加していた。

・事例⑥縦笛を吹く高齢者（JR久宝寺駅前）：縦笛を吹いてベンチに座っていた。休憩中のアーティストと遭遇。楽器演奏で交流し、長時間、会場に滞在していた。（近鉄八尾駅前）縦笛を吹く高齢者が再来場。パフォーマンスエリアに入り飛び入り参加。即興でコラボレーション。見る側から見られる側に入れ替わり、出演者として多くの観客から拍手をもらう。帰り際、やおうるかむコモンズのバッチをもらい、「仲間だね」と一言挨拶して帰っていかれた。

以上のことから、八尾の市民の方は、ライブパフォーマンスに飛び入り参加する率が非常に高い。作品鑑賞するだけでなく、相互に創造できる作品とアーティストをプログラムに入れること。市民が参加できる隙間を作るとことをすれば、面白い効果が生まれそうだと思います。

B委員 八尾に関わる人々みたいなしびりがあつたような気がします。結果、身内うけで終焉したような感じがしました。八尾という場所で芸術文化を行うことは、八尾市に住む人ばかりでなく、八尾に来られるよその方々も含めて、愛情や愛着をもって、この場所をもっと好きになつてもらうことが目的ではないかと思ひます。

私達が知らない八尾を私達が知るために芸術や文化を通して、私たちが八尾の良さにもっと気づき、まちづくりに役立たせる。その形で事業が動き出したら、もっと多くの人達が楽しめる事業になるのではないかと思ひました。

E委員 初めての試みは、成功であったと感じています。これを続けること、発展させること、八尾市に根付かせることなどこれからの課題を多く感じることができました。他地域の取り組みも参考にしながら、自慢できる八尾市にしていきたいと思います。

F委員 八尾市には様々な芸術・文化に関わってこられた方々が多くおられると強く認識することができました。と、同時にこの方々の市民の認知度は低く、活動を発表できる場も限られていると感じました。また、その芸術文化活動をサポートしたり、支えたりする基盤はまだまだ脆弱で、市内全域での盛り上げはまだできていないと思います。八尾市において芸術文化基本条例が制定され、それを推進する会議体が発足したことは非常に喜ばしいことで、この取り組みが市民生活を豊かにし八尾市が魅力あふれる街になっていく一翼を担うことができるよう進めていかなければならないと思います。

G委員 ・わずかな視察でしたが、本番は素晴らしく大変よかったですと思いました。運営されている方々のご苦労が実っていると思いました。
・一方で、審議会委員で推進会議に入っていないメンバーは取り組み過程の情報が乏しく、プロセスが見えにくかったです。また、交流の場もないため、共感ができない状況でした。コモンズの形成は本番からだけで成立するものではないと思います。審議会の審議においても情報量、共感度の差があると思います。
・既存の団体、取り組みのコモンズへの包摂。団体や活動の新旧があるとして、その両方がいつでも関われる開いた仕組みが必要と思われます。
